

「あなたのためなら、死んでもいい」

ヨハネによる福音書 3章 16節

聖学院中学校・高等学校チャプレン 百武 真由美

聖学院に見学に来られる方がたからよく言われることの一つは、「生きる」とか「仕える」とか「愛する」などの言葉が学校の中で頻繁に使われている、ということだと思います。確かに、これが公立の学校だったら、「生きる」くらいは先生たちが口にすることはあるかもしれないけれど、「仕える」とか「愛する」とか言った言葉が口に上ることはまずないだろう、と思います。やはり聖学院がキリスト教の学校で、聖書に記された言葉を大切にしているからだろう、と思うのです。

そうは言っても、愛するという言葉はわかるようでわからない、少しもやもやした言葉ではないか、と感ずます。どうしても、彼氏や彼女のことを連想してしまうし、親の愛ならわかるような気もするけれど、でも愛するという言葉を用いる時、一体私が何をしたら愛することになるのか迷ってしまうことでしょう。口で言うほどには、実際に愛することはそんなに簡単ではない、と感ずます。

では、愛するというのは、具体的にはどういうことなのでしょう。何をどうやったら、愛することになるのでしょうか。私たちは実際のところ、誰をどんなふうにあげているのでしょうか、またはあげていないのでしょうか。

今から470年程前の16世紀、1549年、日本に初めてキリスト教がやってきました。フランシスコ・ザビエルが日本にやってきた時のことです。ザビエルに続き、スペインやポルトガルからはぞくぞくと宣教師が来日しました。ほどなくして宣教師たちは、聖書の日本語訳に取り組み始めます。ところが彼らはすぐに気が付いたのです。日本語には、「愛する」と言う言葉が存在していない、ということ。そこで宣教師たちは、アガペーというギリシャ語の言葉を、どんなふうにも日本語に翻訳するか、話し合いを重ねます。そして「ご大切」という言葉を使って、愛を表現することにしたのです。その後、英語のLOVEという単語が日本に入ってきて、どうやらその頃に現在使われている「愛」とか「愛する」という言葉が用いられるようになったようですが、明治時代以降になっても、LOVEという単語をどう翻訳するかという問題は、明治の文豪たちの大きなテーマであったようです。夏目漱石はこれを「月がきれいですね」と翻訳したことは有名です。どちらかと言えば、男女に芽生える愛を言い換えるために用いられた言い回しのような気がしますが。しかし今日注目したいのは、もう一人、明治時代に活躍した小説家でロシア文学にも通じていた、二葉亭四迷という人です。二葉亭四迷は、LOVEという単語を、次のように翻訳しました。「死んでもいい」。死んでもいい。

かっこつけすぎ、と思われるかもしれませんが、俺も使おう、とひそかに思っている人もいないかもしない。けれども二葉亭四迷が言った「死んでもいい」は案外、聖書が使う「愛する」の意味を的確に捉えているのではないかと、思うのです。なぜなら、聖書の中で、「あなたのためなら死んでもいい」と言って、実際本当に死んだお方がおられるからです。それは誰か？イエス・キリストというお方です。

イエス・キリストという人が十字架にかかって死んだ、ということは、キリスト教徒に限らず広く知られていることだろうと思います。しかしなぜ、そんな死に方をしたのでしょうか。イエスさまは十字架にかけられて、処刑されました。当時最も重い処刑方法でした。つまり、重たい罪を犯したとみなされたのです。しかし実際のところ、イエスさまがどんな犯罪を犯したか、といえ、何も犯しはしませんでした。いわゆる冤罪でした。ところがイエスさまは死刑の判決を受けた時、ただの一言もしゃべらなかつた。それは、無罪であるにも関わらず、敢えて死刑を受け入れようとなさつたからです。無罪の御自身が裁かれることによって、本当は裁かれるべき悪い人が赦されるために。言ってみれば、罪の責任をイエスさまが肩代わりすることによって、赦されないはずの人が赦されたのです。冤罪の全く逆のこと、恩赦が起こつたのです。でもそれは、偶然にとかたまたま起こつたものではありません。あなたのためになら「死んでもいい」と思うほどに、イエスさまが愛されたからです。では誰を？この私を。この私のことを「死んでもいい」というレベルで愛してくださいました。それが、十字架の出来事です。

今日の聖書箇所は、2000 頁もある聖書を一言に要約した一節、と言われてています。神さまは、独り子イエス・キリストを与えるほどに愛された、ということ。それは、一人ですら罪によって滅びないで、天の国に入るために永遠の命を得るためだ、ということ。二葉亭四迷が訳した「死んでもいい」という愛し方を実践した方、それが神さまです。それが、あなたを愛する神さまのやり方です。

祈りをささげます。神さま、あなたが御子イエスさまのいのちをもってして、私たちを愛してくださいるその愛に、圧倒されます。とてもそれを理解しつくすことはできません。けれども、あなたに愛されていること、それが私たちの自信や勇気になりますように。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

2017年6月14日 聖学院中学高等学校 全校礼拝